

## 京都大学における研究活動上の不正行為に係る調査結果について（概要）

### 1. 調査に至る経緯

平成 29 年 8 月に、本学の通報窓口にて、理学研究科の林 愛明教授が責任著者である学術論文について科学的不正の疑いがある旨の通報があった。そこには、「通報対象論文の図表には、見過ごすことのできない多数のミスが散見されるとともに、一部では真正なデータの不正使用などによる改ざんが疑われる」と指摘されていた。

通報を受け、予備調査を行った結果、本格的な調査を行うことが必要であると判断し、外部委員を含む調査委員会を設置し、調査を開始した。

### 2. 調査

#### （1）調査対象論文及び著者

Lin, A., Satsukawa, T., Wang, M., Mohammadi Asl, Z., Fueta, R., Nakajima, F. (2016)

「Coseismic rupturing stopped by Aso volcano during the 2016 Mw 7.1 Kumamoto earthquake, Japan, Science 354, 869-874」

理学研究科 教授 林 愛明 （筆頭・責任著者）

#### （2）調査体制

##### ①部局調査委員会

名称：京都大学理学研究科研究公正調査委員会

##### （学内委員）

平島 崇男 理学研究科・教授 （委員長）

千木良 雅弘 防災研究所・教授

西上 欽也 防災研究所・教授

##### （学外委員）

飯村 佳夫 はばたき綜合法律事務所・弁護士

奥村 晃史 広島大学大学院文学研究科・教授

瀨瀬 一起 東京大学地震研究所・教授

##### ②本部調査委員会

名称：京都大学研究公正調査委員会

##### （学内委員・平成 30 年 3 月 31 日まで）

北川 宏 理事補（研究担当）、理学研究科・教授 （委員長）

山本 克己 副学長（法務・コンプライアンス担当）、法学研究科・教授

中山 健夫 医学研究科・教授

小倉 一夫 研究推進部長

##### （学内委員・平成 30 年 4 月 1 日から）

野田 亮 副学長（研究倫理・安全推進担当）、研究推進部・教授 （委員長）

潮見 佳男 副学長（法務・コンプライアンス担当）、法学研究科・教授

北川 宏 理事補（研究担当）、理学研究科・教授

中山 健夫 医学研究科・教授

(学外委員)

中村 孝志 独立行政法人国立病院機構京都医療センター名誉院長  
平川 秀幸 大阪大学 CO デザインセンター・教授  
原井 大介 きっかわ法律事務所・弁護士  
豊田 幸宏 洛友法律事務所・弁護士

(3) 調査期間

平成 29 年 11 月 30 日～平成 30 年 8 月 9 日

(4) 調査方法

被通報論文について、現地調査の際のフィールドノート・GPS 位置データなどの関係資料の提出を受けると共に、それらの書面調査及び責任著者・共著者からの聞き取り調査を行った。

3. 調査結果

(1) 認定した特定不正行為の種別

改ざん、盗用

(2) 特定不正行為に関与したと認定した研究者

理学研究科 教授 林 愛明

(3) 当該論文の共著者の関与について

被通報論文の共著者はいずれも当該研究の遂行に寄与しているものの、当該論文の執筆における共著者の役割は限られたものであるため、研究不正への関与はなかったと判断した。

(4) 結論

調査の結果、論文の結論を導き出すために重要な役割を果たしている Fig.1 と Fig.2 の合計 6 個の図のうちの 4 つの図に、故意であるか否かは判断できなかったが、研究者としてわきまえるべき基本的な注意義務を著しく反した行為による、改ざん・盗用が認められた。

(5) 今後の予定等

当該論文については、当該者に対して撤回の勧告を行った。また本調査結果を踏まえ、今後、学内規程に則して処分を行う予定である。